

事業名	市民協働「熊谷の力」アイデアコンテスト事業		
実施団体等	実施団体：NPO 法人エコネットくまがや	所管課：環境政策課	
1 事業目的	ムサシトミヨが生息する周辺の水辺環境としてのエコ・オアシスを活性化するために、アイデアコンテストを実施する		
2 事業概要	市内佐谷田・久下地区にある埼玉県まちのエコ・オアシス保全地第3号地ムサシトミヨ生息地周辺緑地は熊谷市が管理をしているが現在未利用の状況にある。このエコ・オアシスの活用方法について市民等からアイデアを募集し、コンテスト方式により優秀な作品を審査し、表彰式、記念講演を実施する。また、コンテスト終了後は市、実施団体で協力の下、優秀作品の実現化を図る。		
3 事業期間	平成28年 4月 1日～平成29年 2月28日		
4 事業区分	市提案事業 ・ 市民提案事業		
5 事業形態	委託事業 ・ 補助事業（補助率 %）		
6 事業費	総事業費： 772,908円(A+B+C)		事業収入： 0円(A)
	実施団体の負担額： 0円(B)		市の負担額：772,908円(C)
7 事業成果と波及効果	<p>●受益対象への具体的な成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5月14日…アイデアの募集に先立ち、エコ・オアシスでの現地説明会を実施。21名参加 ・6月1日 …アイデア募集期間。一般部門では、個人・団体で11点の応募があった。 <p>～7月20日 ただし学生部門（小・中学生）は応募がなかった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7月30日…一次審査（書類選考） ・8月21日…二次審査（公開プレゼンテーション、立正大学にて開催） ・9月22日…表彰式（最優秀賞1点、優秀賞2点） <p>記念講演：木村俊明氏（東京農業大学教授/内閣官房シティマネージャー） 「地域創生 成功の方程式はあるのか？」</p> <p>参加者：約100名</p> <p>1月28日、2月25日…コンテスト参加者とエコネットくまがや会員により、今後のエコ・オアシスのあり方について意見交換会を実施。</p> <p>●達成度</p> <p>コンテスト形式によりアイデアを募集し、またコンテスト終了後にはコンテスト参加者とエコネットくまがや会員による意見交換会によって市民発信によるエコオアシス整備・活用の目指す方向性が示され、本事業の目的は達成された。</p> <p>●波及効果</p> <p>新聞や雑誌などにも取り上げられ、注目度は高い。</p>		
8 協働の効果	<p>●実施団体から見た協働の効果</p> <p>コンテストについては、本来、NPO 団体ではなく、熊谷市が主催すべきとの意見があったが、今回NPO の個人や団体を結びつける力により、事業がスムーズに実施でき協働の効果が得られた。</p> <hr/> <p>●所管課から見た協働の効果</p> <p>協働で実施する事により、市が直接計画を立てて実行するよりも、より市民の理解を得た形で今後のエコ・オアシス整備・活用を推進していくことが出来る。</p> <p>協働で実施したことにより、市民団体同士の横のつながりを活用し、より多くの市民・団体を巻き込んだ形で事業を実施することができた。</p>		

9 今後の展開と課題

●実施団体から見た今後の展開と課題

エコ・オアシスの活性化は、ムサシトミヨの保護育成とあわせて喫緊の課題である。今後は、市の政策に協力して行きたい。NPOとしてもできる範囲で協力できる事業を展開して行きたい。

●所管課から見た今後の展開と課題

今後はアイデアコンテストの優秀作品、コンテスト参加者とエコネットくまがや会員による意見交換会の結果を踏まえ、実施団体の協力を得ながらエコ・オアシスの整備・活用に向け、実現化を図る。

事業名	名勝『三尻観音山』保全活動事業	
実施団体等	実施団体：観音山保存会	所管課：江南文化財センター

1 事業目的	三尻観音山を後世に伝え継承して行く為、枯松、倒木、危険樹木等の伐採や遊歩道の整備、植樹等の保全活動を行う。	
2 事業概要	<p>1、絶滅の危機にある里山のカタクリ、低地性ニッコウキスゲ、イカリソウ、ヤマユリ、オニユリの保護</p> <p>(1) 立枯れ、倒木、老大木等の危険樹木の伐採 (H28年4月 H29年2・3月)</p> <p>(2) 下草刈り及びつつじ、あじさい等の剪定、除草、消毒 (通年 10回以上)</p> <p>2、市民の憩いの場として、遊歩道の造成・拡張と整備</p> <p>(1) 遊歩道の造成・拡張と擬木を活用しての整備 (H29年2・3月)</p> <p>(2) 腐食した杭とロープの交換 (H28年4月)</p>	
3 事業期間	平成28年4月1日～平成29年3月31日	
4 事業区分	市提案事業 ・ 市民提案事業	
5 事業形態	委託事業 ・ 補助事業 (補助率 80%)	
6 事業費	総事業費：1,417,736 円(A+B+C)	事業収入：0 円(A)
	実施団体の負担額 298,736 円(B)	市の負担額 1,119,000 円(C)
7 事業成果と波及効果	<p>●受益対象への具体的な成果</p> <p>1、絶滅の危機にある里山植物の保護</p> <p>(1) 立枯れ、倒木、老大木等の危険樹木の伐採 松くい虫の被害による枯松が10本とクヌギ、コナラ等の倒木が数本あったが、伐採により明るく風通しが良くなり訪れる人々に一層の爽やかさを与えている。</p> <p>(2) つる性のクズや篠等の草刈りやあじさい、つつじの剪定、除草、消毒 下草刈りや自生する植物の通年を通しての管理を行う事により絶滅の危機にある里山のカタクリ、低地性ニッコウキスゲ、イカリソウ、ヤマユリ、オニユリ、山つつじ、はぎ、アザミ等が四季を通して咲き、多くの人の目を楽しませている。</p> <p>2、市民の憩いの場として、遊歩道の造成・拡張と整備</p> <p>(1) ゲリラ豪雨により遊歩道が歩きにくくなっていたので、擬木(セメントの丸太)を利用して、階段を作ったり、土止めに利用したりして歩きやすく整備した。</p> <p>(2) 遊歩道の杭やロープが腐食していたので交換したので山道が分かりやすく歩きやすくなった。</p> <p>●達成度</p> <p>1、『三尻観音山』を後世に継承していくためには、まだまだ整備が必要な所がたくさんあるが、第1段階としては達成できたと考えている。</p> <p>2、最近のゲリラ豪雨により山の土砂が流れてきていて土砂崩れの心配があるので雨水処理の対策が急務である。</p> <p>●波及効果</p> <p>1、遊歩道が一層整備されたり危険樹木が伐採されたりした事により、四季折々の花をゆっくり楽しみながら愛でることが出来るようになり、より一層市民の憩いの場となっている。</p> <p>2、児童生徒の学習活動や部活動の場、市民の散策やジョギングの場としてより安全に活動できるようになった。</p>	
8 協働の効果	<p>●実施団体から見た協働の効果</p> <p>1、観音山クリーン作戦と名付け地区住民の多くに呼びかけて山の清掃活動を実施した。山中の市道の落ち葉集めや山の下草刈りを実施した。12月中旬の寒い日であったが160人の参加があり、気持ちの良い汗をかけた。きれいになった山を背景に最後に皆でお茶を飲み渴いた喉を潤して解散した。</p> <p>2、遊歩道の腐食した杭とロープの交換では、木槌の使い方やロープのしぼり方を大先輩から若い人へ教えていただいたので、老若男女の交流だけでなく技術の伝承が行えてとてもよかった。</p> <p>3、三尻地区にある観音山は、地域に住んでいる人々が皆で保全活動をしていると言う意識が年々多くの人々に育ってきている。</p>	

	<p>●所管課から見た協働の効果</p> <p>地域の資産としても市内外から愛着を持たれている観音山の風光明媚な景観を醸成する効果があり、来場する人々の見聞を楽しむための環境醸成が図られた。市及び保存会の啓発とともに、歴史と文化財保護の両面から更なる来場者の増加が見込める関係性が構築できた。</p>
<p>9 今後の展開と課題</p>	<p>●実施団体から見た今後の展開と課題</p> <p>1、枯松、倒木等の伐採については、おおむね達成できたが、遊歩道の造成と整備についてはまだ不十分であるので、今後も計画的に継続したい。</p> <p>2、最近のゲリラ豪雨により山の土砂が流れてきていて土砂崩れの心配があるので雨水処理の対策が急務である。</p> <p>3、山の南斜面にも遊歩道を造成に桜やモミジを植樹する計画をしている。</p> <hr/> <p>●所管課から見た今後の展開と課題</p> <p>自然遺産としての特質がある中で、天候や気象による影響を受けることは必然であり、これらに対して被害を最小限にするための対策が求められている。また地域の人々及び市内外から保存会組織を拡大させるなどの方法とともに、ガイドボランティア等の育成に向けて地域の知見を再認識する方法を模索していく。</p>

事業名	タグラグビー普及啓発事業	
実施団体等	実施団体：NPO法人 ARUKAS KUMAGAYA	所管課：学校教育課
1 事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・「タグラグビーで学ぶチームワーク授業」を通じ、子どもたちの「生きる力」を育む。 ・2019年ラグビーワールドカップ熊谷開催の成功に向けて「熊谷市民のラグビー熱」を高める。 	
2 事業概要	<p>本事業は、文部科学省が平成20年6月改訂の小学校学習指導要領解説【体育編】で例示された「タグラグビー」を、より安全に楽しめる形で授業導入し、少子高齢化や科学技術の進展が早まり人間関係が希薄化している昨今、子どもたちの「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の知・徳・体をバランスよく育めるよう「One for all, All for one」「No sideの精神」「チームワーク」を軸としたカリキュラムを組み、タグラグビーの出前授業を行う。具体的には熊谷市全小学校を1年間で訪問して授業を実施（小学校29校 4・5年生3,210名対象/109クラス 35日※基本1日1校 人数の多い小学校は2日間にわたる）。</p>	
3 事業期間	平成28年4月1日 ～ 平成29年3月31日	
4 事業区分	市提案事業 ・ 市民提案事業	
5 事業形態	委託事業 ・ 補助事業 （補助率 80%）	
6 事業費	総事業費 568,749円（A+B+C）	事業収入：0円 （A）
	実施団体の負担額：114,749円（B）	市の負担額：454,000円 （C）
7 事業成果と波及効果	<p>●受益対象への具体的な成果 子どもたちにタグラグビーの魅力・楽しさを味わわせることができた。また、生きる力を育むための一助となった。更に、2019年のラグビーワールドカップに向けての機運の醸成を図ることができた。</p> <p>●達成度 <ul style="list-style-type: none"> ・事後アンケートにて「タグラグビーの授業は楽しかった」との児童の回答が99% ・事後アンケートにて「ラグビー、タグラグビーに興味関心がある」との児童の回答が90% ・児童以外に教員、保護者にもラグビー、タグラグビーに興味・関心を持ってもらうことができた。（アンケート結果より） </p> <p>●波及効果 新聞社、TVなど多くのメディアに取り上げられ、熊谷市のみならず県及び県外へも事業効果が波及された。</p>	
8 協働の効果	<p>●実施団体から見た協働の効果 市と協働で取り組むことで、財政的な支援はもとより、情報を共有することで、円滑に事業を計画・推進することができた。また、学校現場の実態や教職員との連携を基に効果的な授業のプログラムを編成し取り組むことで、児童・保護者のラグビーへの関心を高めることができた。</p> <p>●所管課から見た協働の効果 より専門性の高い視点で、目標設定・計画の作成段階から意見交換できることで、より効果的で充実した事業を展開することができた。また、一流選手・指導者との交流を通じて子どもたちの夢を育み、知・徳・体のバランスのとれた学力を身に付けることができた。</p>	

<p>9 今後の展開 と課題</p>	<p>●実施団体から見た今後の展開と課題</p> <p>子どもたちのタグラグビーへの関心を一層高め、大会などへの参加も増大できるよう、市との協働により、事業を推進していく。また、2019年ラグビーワールドカップに向け、ラグビー人口、ラグビーファン人口の増大を図る。</p> <hr/> <p>●所管課から見た今後の展開と課題</p> <p>技能だけでなく、チームワークの大切さを学ぶ本事業を、アルカスとの協働により一層推進していく。また、すべての子どもたちが、ラグビーのルールを理解し、より身近なスポーツとして感じられるよう「ラグビーハンドブック」を作成する。</p>
------------------------	--

事業名	熊谷共助ニュース事業	
実施団体等	実施団体：特定非営利活動法人 NPO くまがや	所管課：市民活動推進課
1 事業目的	熊谷市内の「共助・市民活動」情報を発信し、課題を共有することで、解決の方法を探り、市民活動を活発化させる。	
2 事業概要	熊谷市の市民活動、共助の情報を、ミニFMラジオ、印刷物、SNS、インターネットなどのメディアミックスで発信する。 市民に参加を呼びかけながら議論を深め、「熊谷共助スタイル」を創造する。	
3 事業期間	平成28年4月1日～平成29年3月31日	
4 事業区分	市提案事業 ・ 市民提案事業	
5 事業形態	委託事業 ・ 補助事業 (補助率80%)	
6 事業費	総事業費： 109,020円(A+B+C)	事業収入： 0円(A)
	実施団体の負担額： 22,020円(B)	市の負担額： 87,000円(C)
7 事業成果と波及効果	<p>●受益対象への具体的な成果</p> <p>情報発信、課題共有、市民活動の活性化という目的はある程度達成されました。部門別には、次のような成果があげられます。</p> <p>1) ミニFM 番組制作のために企画した「もんだいカフェ」が想定以上の効果を上げ、熊谷市の課題に関心のある多くの人びとが会える場となり、カフェから発生した動きもいくつかあります。さいたまNPOセンター情報誌、北部地域振興センターホームページで紹介されるなど外部からも好評です(もんだいカフェ開催4回、参加者のべ約80名)。</p> <p>2) 印刷物 年一回の印刷・発行に変更しましたが、その分フルカラーA4版8ページとボリュームが大きくなり、これ一部で一年の熊谷共助・市民活動の動きがわかると好評です(3月31日号発行5000部)。</p> <p>3) SNS・インターネット 市民活動情報をFacebookページで発信しました。他の事業との違いは「問題提起型」のコンテンツである点で、イベント情報の発信でも背景にある問題・課題を共有させるような内容になりました(投稿13回)</p> <p>4) 「熊谷共助スタイル」声明の発表にはいたりませんでした。もんだいカフェなどで課題に対する考え方を多くの市民、とくに事業開始前には知らなかった人々と共有することができ、次年度以降の展開につなげることができたと思います。</p> <p>●達成度</p> <p>もんだいカフェ 開催4回、参加者のべ約80名 印刷物 3月31日号発行5000部 Facebook 投稿13回 事業の回数、事業費など、達成度は高くありません。</p> <p>●波及効果</p> <p>とくに、もんだいカフェで多くの波及効果がありました。</p> <p>次年度、商業観光課との市民協働「熊谷の力」に採択された「移動健康カフェ」事業は、「高齢化社会」を語るカフェでの話し合いから生まれています。ほかに、「バリアフリー」の回ではニャオざねまつり実行委員会での話し合いからの乗り入れ。そしてカフェに参加した多くの人々がNPOの会員になり、その中から次年度から本NPO法人が指定管理することになった市民活動支援センターのスタッフが生まれるといった、「もんだいが人(と意識)を集める」ことによる波及効果が生まれました。</p>	

<p>8 協働の効果</p>	<p>●実施団体から見た協働の効果</p> <p>ひとつは広報に関すること。もんだいカフェの告知にしても、「熊谷の力」の効果は大きく、また NPO との協働という位置づけが、ある参加者から「行政が実施する集まりとは違う」との声が出るほどいい意味で「微妙」で効果的でした。</p> <p>次に NPO 会員に市民活動推進課非常勤で市民活動支援センター常駐の「共助仕掛人」がいたこと。市内の動きや他市、県の動きがダイレクトに伝わり、密度の濃い事業ができました。</p> <hr/> <p>●所管課から見た協働の効果</p> <p>実施団体の意見にもあるように、NPO 会員に市民活動推進課非常勤で市民活動支援センター常駐の「共助仕掛人」がいたことが効果を上げていた。NPO と「共助仕掛人」のネットワークの活用により有効な情報提供ができた。</p>
<p>9 今後の展開と課題</p>	<p>●実施団体から見た今後の展開と課題</p> <p>市民活動の中間支援の団体である本法人の発信事業として、今後も市民活動推進課と連携しながら進めていきます。本法人は 29 年度から市民活動支援センターの指定管理者となるため、共助と市民活動の情報発信は登録団体を中心に同センターの一事業として展開する予定。不足しがちだった人材もセンタースタッフの活用で安定します。</p> <p>課題としては、市内他セクション、周辺市町村、県などとの連携。29 年度から民営化される観光協会、市民活動紹介ページもあり本法人理事でもある㈱ピーアイピー発行のフリーペーパー「NAOZANE」編集部などとも情報を共有しながら、より密度の濃い発信に努めます。</p> <hr/> <p>●所管課から見た今後の展開と課題</p> <p>実施団体が平成 29 年度から市民活動支援センターの指定管理者となるため、引き続き「共助・市民活動」情報を発信し、市民活動の活発化を支援できると考える。</p>